



おいしそうに「じゃがいもピザ」を試食する子どもたち

6月8、9日の2日間、財田自然体験ハウスで、6月自然ふれあい行事「じゃがいもピ

ザづくり」が行われ、親子連れ約15人が参加しました。子どもたちは、大好きなピザ作りを楽しそうに取組み、おいしい出来上がりに笑顔が広がりました。

今回挑戦した「じゃがいもピザ」は、じゃがいもを使用した生地に、アスパラや玉ねぎなどの季節の地元野菜をトッピングしたもので、生地のもちもちした食感と地場産の野菜がマッチして好評を博しました。

試食後は、同ハウス内の畑に出て、野菜の種まきなど行い、野菜と環境のつながりについて考えました。

じゃがいもピザ作りに挑戦 洞爺湖の食材で自然とふれ合う

新緑の月浦地区を歩く 史跡めぐりウォークラリー

6月8日、平成25年度「自然に親しむ集い・史跡めぐりウォークラリー 月浦散策」（教育委員会主催）が行われ、春の日差しをいっぱい浴びながら約5^{km}のコースを散策しました。参加者は、約40人。

コースは、洞爺湖温泉小学校をスタートに、三十三観音、北大臨湖実験所、幡神社内月浦自作農創設記念碑、月浦森林公園内、加藤子爵邸跡休憩所などを巡ってスタート地点



三十三観音で説明を受ける参加者たち

に帰るコース。参加者らは、各ポイントで史跡などの説明を聞き、洞爺湖の自然や文化のすばらしさを再発見していました。

花の世話でやさしい気持ちを育む 虹小に人権の花プレゼント

6月24日、室蘭人権擁護委員協議会が虹田小学校（成田浩司校長）を訪れ、ポットに入ったサルビアとインパチェンスの苗合わせて144株を寄贈し、同小のボランティア委員13人が、すみれの会の皆さんの指導を受けながら、16個のプランターに9株ずつ苗を植え付けました。

花の世話をしながら、優しい気持ちを育くんでもらおうと同協議会が行っている取組みです。

贈呈式では、安住人権擁護委員から神馬咲陽くん（5年に目録が受け渡され、齋藤雅也くん（6年）が「いただいた



すみれの会の皆さんの指導で苗を植え付ける児童たち

た花をみんなで大切に育てていきます」とお礼の言葉を述べました。



豊かな森を願い植樹する児童たち

2004年から始まった、洞爺湖温泉小学校（古瀬達郎校長）の環境授業「緑はどうなった？」が、

6月26日小有珠川遊砂地で行われ、児童らが植生回復を願って苗を植えました。

砂防施設周辺の植樹を通して、自然への理解や防災意識を育もうと同小が続けてきている授業です。

この日は、ドロノキやケヤマハンノキ、ハルニレ、オニグルミなど由来種50本を、北海道工業大学の岡村俊邦教授らの指導で、砂利を敷き詰めた半径1^mほどのサークル7カ所に植栽しました。

10年目を迎えた温小「緑はどうなった」授業 森の再生で防災への意識育てる



まちのわだい